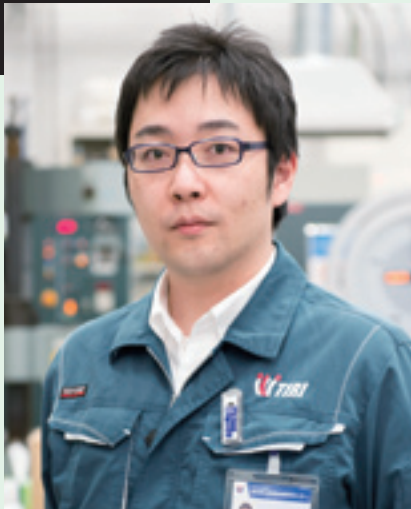


毎号、研究員をクローズアップして、業務内容や仕事に対する思いをご紹介します。



Vol.  
09

機械技術グループ  
副主任研究員  
い わ お か た く  
**岩岡 拓**

大学工学部にて粉末冶金について研究。メーカー勤務を経て、平成20年に都産技研入所。趣味は映画鑑賞。



「工程順でわかるはじめてのプレス粉体成形」

浅見 淳一／日刊工業新聞  
ISBN 978-4-526-06709-9

さまざまな分野の技術者を対象とした入門書。実製品への応用に関する技術解説もあり、ステップアップに役立ちます。

## 人生(流束)＝努力(障壁)×生命(駆動力)

### 確かな実力を兼ね備えた 縁の下の力持ちに

私は、大学時代から継続して粉末冶金を専門分野としています。粉末冶金とは、冶金学をベースにした素形材分野の一つで、広範な基礎工学から成り立っています。冶金的現象は、経験則に基づいて理論化されていますが、説明がなされていない現象も多くあります。従来の認識が一変することもあり得ます。したがって、仮に「調べつくした」、「過去の技術だ」という発言があれば、それは無責任なエゴイズムになるでしょう。

大学生の頃、「工学部の目的は、工学的手法の発見・発明である」と指導教官に言われたことを思い出します。工学的手法とは、工業化のための材料プロセスであり、起こる現象一つ一つの原因と結果の理解、そして知見の蓄積から導かれるものです。

技術支援と研究は別物と見られがちですが、このような一つ一つの現象の理解が製造現場で起こる複雑な問題の解決の糸口になります。そのため、裏方的

な仕事こそが重要だと考えています。張り子の虎のような見かけ倒しではなく、確かな実力を兼ね備えた縁の下の力持ちになれるよう、専門性を高めていきたいと思えます。

### 将来の投資につながる 研究開発が重要

都産技研に求められる役割は、企業の製品開発におけるリスク軽減や次世代につながる固有技術の創出だと思っています。そのためには、シーズとなる基礎・基盤技術の研究開発が欠かせません。目先の利益にとらわれることなく、自由な発想で将来の投資となるような研究開発を進めることが重要です。

こうした研究開発を通じて、知見を蓄積し、お客さまから依頼される技術開発や不具合の原因調査に対して、材料とプロセスの両面からアプローチできるよう努めています。

人の一生を反応速度論で表現するならば、「人生(流束)＝努力(障壁)×生命(駆動力)」。自分の体力・気力を駆動力として、目の前にある障壁を超えるため

にチャレンジを続けていきたいと考えています。もし、障壁と駆動力のどちらかがゼロになれば、流れも止まります。この法則を現在の仕事に当てはめ、技術の厚みが増すよう、自分自身を活性化し続けていきたいです。

粉末冶金に関する相談対応や  
金属粉末の焼結技術支援が  
中心です

